

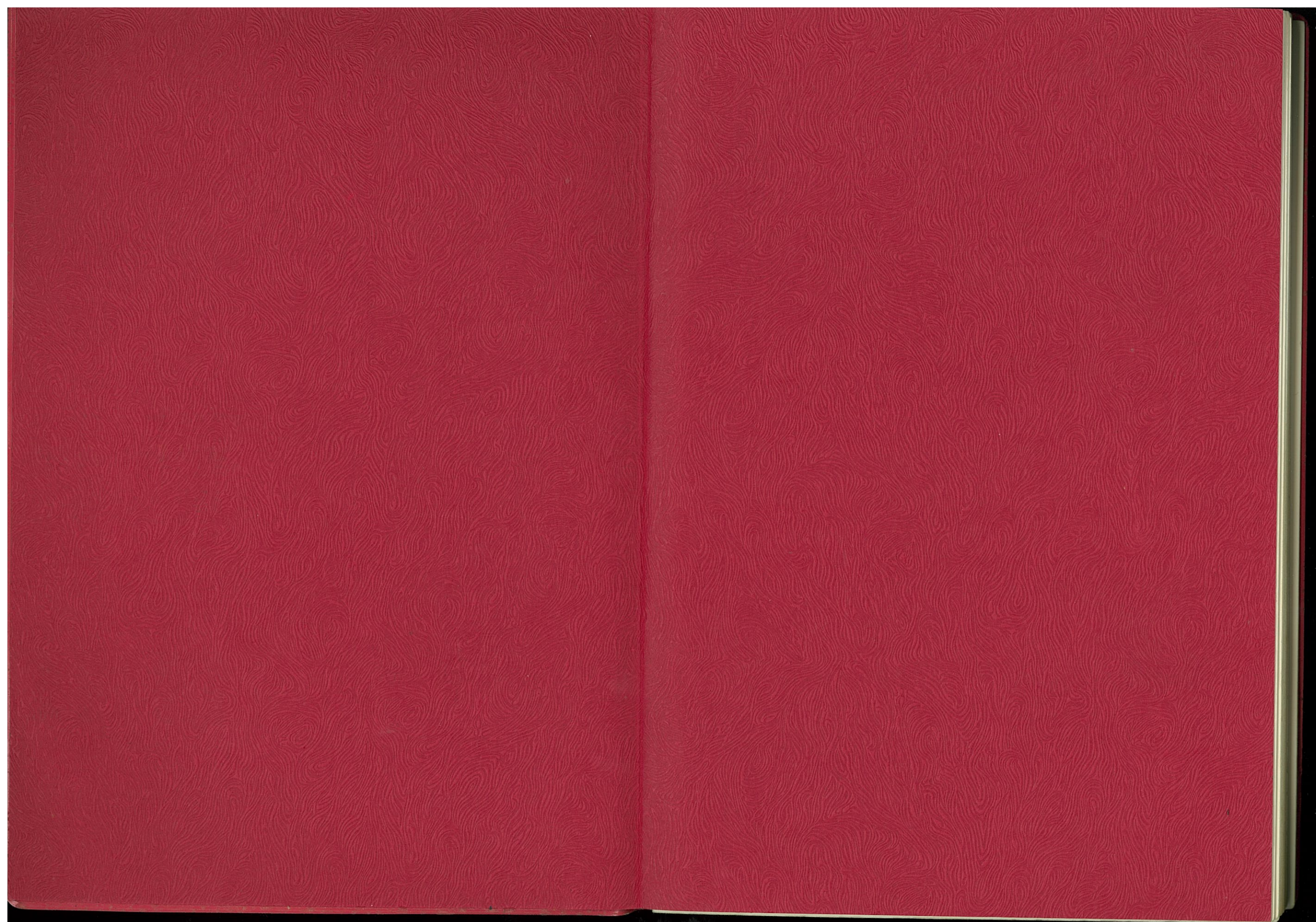
СВЯТО-ПЕТРОВСКІЙ

СБОРНИКЪ

ПѢСНИ

СВЯТЫХЪ

ЛІТУРГІЯ



СБОРНИКЪ
ЦЕРКОВНЫХЪ ПѢСНОПѢНІЙ

Переложилъ В.А.Покровскій

ポクロフスキー改譯

聖歌集

東京復活大聖堂
聖歌隊

大阪正教聖歌會

が
い
を

土
、
を
の
し
き
も

会
義
の
る

我が霊や主を讃め揚げよ
主やなんじは崇め讃めらる
我が衷心やその聖なる名を讃め揚げよ
(百二聖詠。聖体礼儀の最初に歌唱する)

聖体礼儀の初め、この聖歌を聞くと、私達は、心が明るく、暖かくなり、心がなごみ、一週間の心労が慰められ、何か喜びに満ちて感動し、大なる希望がわいてくるのを、誰れもが経験したことでしょう。

聖体礼儀や、その他の公祈祷で、最高の心がまえで、最上の自分の声で、神を讃めたゝえることは、何にもまして立派な正教信仰の表現です。

正教とは、最善の心がまえで、神を讃栄することを意味しています。

《我が神に歌い歌えよ、我が王に歌い歌えよ》 (ボロキメン第三調)

日本の府主教セリギイは、その昔、昭和十三年十二月十四日、この聖歌集の土台となった、ボクロフスキイ改訳『聖歌集』(大阪正教会聖歌会)発刊に際し、序言に『ただ一種の花のみでは、美しい花束は出来ない。天空も種々なる光彩を放つ星によって綺麗なのである。一様な聖歌のみを、平日にも、祭日にも、何の変化もなく歌うのでは、七割以上聖歌から成立っている我が教会奉神礼は、美しい感想を我等に起こさしめることはできない。宗教心は常に活動している(生きている)。常に聖歌の楽想と歌詞とを作りつゝある』と云っています。過去にも正教会聖歌はそうであり、現在も勿論、将来もそうであります。

今度、大阪ハリストス正教会開教百年の記念に当り、伝統ある大阪正教聖歌会が『聖体礼儀聖歌集』を、ティト加藤直四郎指揮者の監修、アフアナシイ河野義信兄の採譜、幹事パウエル荻野常男兄の努力によって発行されることは、現在の日本の諸正教会にとっても重要な意義をもっています。

この美しい正教会の聖歌をもって、正教を知らぬ人々に宗教心の感動を与えることが出来れば、これこそ最大の正教伝道といわなければなりません。

心より、この『聖体礼儀・聖歌集』発行を祝福致します。

昭和五十二年三月五日

大阪正教会開教百年祭の記念日に

+ 罪僕 長司祭 プロクル 牛丸 康夫

目 次
我が霊や主を讃めあげよ

1	大主教ニコノル	1
2	チェスノコフ	3
神 の 独 生 の 子		
3	ボゴスロフスキー	4
真 福 九 端		
4	スモレンスキー	7
重 聯 禱		
5	神父バンコフスキー (福音後の)	10
6	チェスノコフ (福音後よりヘルヴィムの歌まで)	11
ヘルヴィムの歌		
7	シモノフスキー調	13
8	リムスキーコルサコフ	16
9	リオフスキー	19
10	ボルトニャンスキー (No. 7) ツァルスカヤ	22
11	アルハンゲルスキー (No. 8)	25
12	チェスノコフ (ヴィジャ・ラズボイニクの調、作品33のNo. 6)	28
13	チェスノコフ (ソフロニエフスキーの調、作品27のNo. 5)	31
14	ヤコフ・チハイ (No. 2)	91
15	ヤコフ・チハイ (No. 3)	92
16	ヤコフ・チハイ (No. 4)	93
17	ヤコフ・チハイ (No. 5)	94
18	ヤコフ・チハイ (No. 6)	95
19	ヤコフ・チハイ (No. 7)	97
20	ヤコフ・チハイ (No. 8)	98
21	輔祭デ・リオフスキー (No. 9)	99
22	輔祭デ・リオフスキー (No. 10)	100
23	ボルトニャンスキー (番外1)	102
24	ボルトニャンスキー (番外2) ツァルスカヤ調	104
25	トルチャニノフ (番外3)	106
26	デ・リオフスキー (番外4)	109
27	ストローキン (番外5)	110
28	デ・リオフスキー (番外6)	112
29	デ・リオフスキー (番外7)	114
信 經		
30	グレチャニノフ	36
31	ヤコフ・チハイ	116
平 和 の 憐 れ み		
32	アルハンゲルスキー (No. 2)	40

33	アルハンゲルスキー (No. 3)	43
34	アルハンゲルスキー (No. 7)	46
35	ソコロフ	50
36	チェスノコフ	53
37	ヤコフ・チハイ (No. 2)	119
38	ヤコフ・チハイ (No. 3)	123
39	ヴィノグラードフ (番外)	126
常 に 福 に し て		
40	アゼエフ	56
41	ボルトニャンスキー (No. 2)	121
42	ヤコフ・チハイ (No. 3)	124
43	ヤコフ・チハイ (No. 4)	125
44	デ・リオフスキー (番外)	128
天 主 經		
45	スミルノフ	58
46	作曲者不詳 (3 番)	129
コ ン ツ ェ ル ト		
47	ボルトニャンスキー喜びて、神・我等の固めに.....	59
48	ボルトニャンスキー (No. 1)新たなる歌を主に唄えよ.....	65
49	ボルトニャンスキー (No. 2 9)歌をもって我が神の名を讃めうたわん.....	72
50	作 曲 者 不 詳万民や手を打ち.....	77
51	デ・リオフスキー (降誕祭)ハリストス生まる崇め讃めよ.....	79
52	デグチャリヨフ (復活大祭)ドネッシャカトワーリ.....	81
幾 年 も		
53	デ・ソロビエフ (No. 1)男声四部.....	131
54	ボルトニャンスキー (No. 2)	132
55	ボルトニャンスキー (No. 3)	133
56	神父トルチャニノフ (No. 4)	134
57	神父スタロルスキー (No. 5)	135
58	スモレンスキー (No. 6)男声四部.....	136
59	スモレンスキー (No. 7)男声四部.....	136
60	作曲者不詳 (No. 8)	137
61	ボルトニャンスキー (No. 9)同声三部.....	139
62	ボルトニャンスキー (No. 10)同声三部.....	140

ロシア正教会聖歌史人名表

988	デメス・ツーエンニク ブリチュニク (スラヴ人) キエフ聖ウラヂミル公の 要請によりコンスタンチノーブル の総主教がロシアに派遣す		Ⅲ 新世実語 アレクセイ・ミハイロビッチ皇帝 (聖歌、歌唱、歌詞調査委員会) 修道士アレクサンドル・メゼネツ
		1742	ワシリー・パシケービッチ ~1800
		1745	マクシム・ベレゾフスキー ~1777
11世紀~ 14世紀	I 旧式真正発音法 単声聖歌	1750	ミハイル・マチンスキー ~1820
15世紀~ 16世紀	II 新式真正発音法 ズナメニ聖歌	1751	デミトリー・ボルトニャンスキー ~1825
		1766	デフテレフ ~1813
			ウェーデル ~1810
1551	ストグラヴィ公会 イワン4世がオビホードに ズナメニ聖歌をとり入れる イオアン・アキモウビッチ・ シャイドゥーロフ (楽譜記号考案者) サワ、ワシリー、ロゴフ、 ステファン、ゴルイシ (ロシア東北教会に聖歌普及) イオアン・ノース フォードル・アリストティアニン イオアン・ルコスコフ 長司祭プロツポープ シリウエスドル ゴロウスチック (聖三者セルギー修道院詠隊長)	1772	バッコフスキー ウリール・マトフェービッチ・ゴローニヤ ビイシコフスキー
			モスコーシノド聖歌会議 オビホード(奉事規程) オクトイフ(八調経) ズナーメン(救主及聖母祭用)
		1777	礼拝用聖歌統一会議 ギリシャ調 ズナメン調スラヴ セルビア調 キエフ調 南ロシア調 モスコー調 聖母大聖堂調
		1779	ベートル・トルチャニノフ ~1856
		1799	アレクセイ・ヘドロビッチ・リオフ (帝室附声楽院長) ~1870
1652	キエフよりモスコーに聖歌隊 派遣される		ヲロツニコフ
1666	ニコライ・パウロビッチ・ヂレッキ コレネフ(キエフ) マカリエフスキー(モスコー) ティフォン(ノヴゴード) イオアン ツルフォーモフ コレネフ ワシリー、ティト	18世紀 上半期	ミハイル、シーボフ、ディヤコフスキー イオアン、ミハイロフスキー、ボロツポープ イタリア・オペラ形式コンツェルト をソロ付四部合唱を宗教曲に取り入 れる
		1801	アレクサンドル・ワルラモフ ~1848
			アレクサンドル・エゴロビッチ
		1804	ミハイル・ゲリンカ 帝室附声楽院長 1837~1839

16世紀末 17世紀 初期	イオアン・グロウスヌィ帝 イグーメン (フワチンスキー修道院長) マルケル・ベツボローツヌイ (徹夜祈作者) ボツロフ		エヌ・バフメーテフ 帝室附聖堂聖歌隊長(1869) 聖歌譜奉事規定の再改正補足す
1840	ピョートル・チャイコフスキー ~1893		
1844	リムスキー・コルサコフ ~1903		
1856	アレクサンドル・ カスタルスキー ~1926		
	エヌ・チエレニン シュベドフ		
1859	ニ・ア・ソコロフ ~1922		
	イポリット・イワノフ ~1935		
1861	アレンスキー・カリコフ ~1906		
	パウエル・チエスニコフ	日本正教会聖歌史人名表	
1862	グレチャニノフ ~1952	1875	アナトリー・デミトリビッチ・チハイ(兄)
1873	セ・ワ・ラフマニノフ ~1943		ヤコフ・デミトリビッチ・チハイ(弟)
1882	サミンスキー	1883	ディミトリー・リオフスキー
	帝室附声学院教授陣 (1891~1894) 総長 セ・レメティフ 院長 バラキレフ 副院長 リムスキー・コルサコフ 次長 リヤブノフ 教授 リヤドフ 教師 ニ・ア・ソコロフ " アゼエフ、スミルノフ " シーボフ、ゴルブノフ	1888	金須嘉之進(1891~1894モスコー) ~1951
	オビホード編集会議 (1909)		小原 甲三郎 東海林 重吉 中島 六郎
1905	ベレゾフスキー(米帰化)	1924	ヴィクトル・アレクサンドロビッチ ポクロフスキー(1961渡米)
*参考文献 サッケッチ 世界音楽史 ジェームス・バクスト ロシア音楽史 アルノルト・シェーリング 西洋音楽史		大阪正教会聖歌史人名表	
		1878	パウエル 吉田 辰三 ~1879
		1882	デミトリー・リオフスキー ~1884 (明5)
		1895	アレキサンドル 室 越
		1911	ニーコン 松田輔祭
		1925	ワシリイ 武岡 武夫 ~1927
		1928	マリア 高橋(比嘉)歌子 ~1932
		1932	ティト 加藤 直四郎 ~1978~

(1) 正教会の礼拝について

正教会の宗教的儀式・礼拝のことを「奉神礼儀」(Divine Services) となづける。正教会の「礼拝」—(奉神礼)—は単なる「信徒の集会における」「公の儀式」などというものではない。正教会の礼拝はハリストス(キリスト)の御身体である教会・聖堂の生命であり、教会はハリストスが神人であるように、ハリストスの神人的本質の藉身(受肉)したものである。教会はハリストスの体そのものであり、礼拝は教会本質の顕れである。正教会はこの礼拝—奉神礼儀—のことを次のように定儀している。奉神礼儀とは第1に聖書の誦読、第2に聖書の講義、第3に祈祷文を献ずること、第4に聖歌の歌唱、第5に聖奉事の務め、聖機密の執行、その他正教会の諸儀式を行うことをいい、その順序は教会の聖師父(Church Fathers)、聖教師、(Church Doctors)等が制定したもので、私的にそれらを変更することはできない。

奉神礼儀は教会信徒の求めにより聖職者として奉神礼執行のために殊に選立された人(主教司祭・輔祭)を通して人々の家や聖堂で執行する「公け」の奉神礼と、信徒各個人の求めによって自由に祈るための「私的」奉神礼とに分別できる。「公け」の奉神礼の中心的なものが聖体礼儀(リトルギヤ)(Divine Liturgy)で、公祈祷(私祈祷に対して)ともよんでいる。

また、聖体礼儀は、「最後の晩餐」「愛の晩餐」(アガペー)など、神学的、歴史的用語と同意義的に使用され、「エヴハリストア」(Eucharist)「聖体機密」(Sacrament—Mysterion of Holy Communion)などともよばれる。

(2) 聖体礼儀のいろいろ

教会の歴史がながく、また、世界の広い地域にわたる正教会は、少しずつ変化した形の聖体礼儀をもつに至っている。現在、ロシア、ギリシアの正教会では5つの聖体礼儀が行われる。ロシア、ギリシアの正教会の聖体礼儀と言っても、スラブ民族の正教会は全てロシア式と見てよく、日本の正教会もロシア式である。第1はイエルサリムの聖イアコフの名をとった聖体礼儀で、その記憶日である10月23日に年1度だけ、限ぎられた正教会で行われる。第2はこれも1年に1度だけエジプトのアレキサンドリアで行う聖マルコの名のつく聖体礼儀。第3は聖大ワシリイ(St. Basil the Great)の聖体礼儀で降誕祭と神現祭(洗礼祭)の前日、聖枝祭をのぞく他の大斎中の全主日(Great Lent)、受難週間の聖大木曜日、聖大土曜日それに聖大ワシリイの記憶月(1月14日)の年10回行う。第4は聖金口イオアン(St. John Chrysostom)の聖体礼儀で毎日曜日、教会の祝祭日にはこれを行う。第5は先備聖体礼儀で大斎中の水・金曜日、受難週間の聖大月曜日、聖大火曜日、聖大水曜日に行う。先備聖体礼儀はその形式や内容において最も古く、その内的精神、順序は最も「使徒的」とさえ考えられている。以上、正教会の聖体礼儀のいろいろで、オリエンタルな東方教会の聖体礼儀は含んでいない。

(3) 聖金口イオアンの聖体礼儀

正教会の礼拝中、また、聖体礼儀の中で最も代表的かつ一般的な聖金口イオアンの聖体礼儀を紹介する(The Divine Liturgy of St. John Chrysostom)。聖体礼儀は教会生活の中心で、全ての教会生活がこの聖体礼儀に焦点を合わせている。正教徒の教会生活は聖体礼儀の方向へ進み、それと結びついて、それをもって完成する。このような聖体礼儀の教会生活に占める絶対的権威の傾向は、聖体礼儀が、主イイスス・ハリストス(イエス・キリスト)御自身が立てられ、今日まで正教会の中に連綿として継承されてきたという正統信仰の絶対的基礎の上

に、つまり聖伝(Holy Tradition)の内に正教徒が生活しているからである。

聖体礼儀の中で、聖金口イオアン(クリュソストモス)と聖大ワシリイ(バシリウス)の聖体礼儀はその構成上、全く類似している。聖金口の聖体礼儀は、主イイスス・ハリストスの御生涯を3期に分けて記念している。

①降誕より洗礼までの時期、聖体礼儀の中では〔奉献礼儀〕(プロスコミデア)

②洗礼より3年半の間の宣教の時期、聖体礼儀の中では〔啓蒙者(洗礼志願者)の聖体礼儀〕

③御生涯中の最後の時期、聖体礼儀の中では〔信者の聖体礼儀〕で、これは聖体礼儀中最も重要な部分。更にこれを次の5つに分けて説明できる。1) 聖祭品(聖パンとぶどう酒)を奉献台から宝座(祭壇)に移すこと、2) 信者を聖体機密に準備すること、3) 機密(Sacrament—Mysterion)の執行、4) 領聖(御聖体を受けること、聖体拝受、陪餐)、5) 感謝。

次に聖金口イオアンの聖体礼儀の概略を記す。

《1》奉献礼儀(プロスコミデア)

奉献礼儀は奉献台で行われ、司祭はそこで機密を行うためにパンとぶどう酒を準備する。このパンのことを聖パンとよんでいる。この奉献礼儀中、誦経者(教会の定めた読経の本を読む人、例えば、時課経とか使徒経など)は聖詠(詩篇)からなりたっている祈祷「時課」経を誦する。聖体礼儀を行うため「プロスフォラ」(聖パンのこと)という5つのパンとぶどう酒を準備する。司祭はプロスフォラの1つから救主イイスス・ハリストスを記念するため4角の部分に切りぬいて取り出す。これを「小羊」と名づける。この聖パンの小片は救主の御身体としてかたどられ、救主をあらわす。他のプロスフォラからは、また小片を切りとり、各々、生神女マリヤ(聖母のこと)、諸聖人、生者、死者を記念する。

教会に参拝する人々は、司祭が親近者の生者と死者を記念してくれるよう、自分のプロスフォラを求めて手渡しする。ぶどう酒は赤色で、ぶどうからつくられたものでなければならず、水と混じて聖体準備のために使用される。奉献礼儀の様子は一般の人々には見られない。

《2》啓蒙者の聖体礼儀

聖体礼儀の第2部は、啓蒙者の聖体礼儀でこれは聖体機密へと信者をみちびく礼儀である。この部分を啓蒙者の聖体礼儀とよんでいるのは、古代に未だ洗礼を受けておらず、洗礼の準備期間にある者が聖体礼儀に参加することを許したのでこのようによばれる。洗礼の準備期間にある人々を啓蒙者とよんでいる。啓蒙者の聖体礼儀はいくつかの「連祷」(エクテニア)からはじまる。連祷はいろいろの「奉神礼」(正教会の全儀式をこうよぶ)の中でしばしばくりかえされる祈りである。それらは司祭あるいは輔祭の誦する短い祈願のつらなりからなっていて、聖歌隊がそれぞれの祈願の後《主あわれめよ》とか、《主たまえよ》とか唱える。いくつかの連祷と祈りの後、司祭は荘厳に北門から(北門とは聖障に向かって左側の扉のこと)聖福音経をたずさえて、王門を通過して宝座に入る。これを「小聖入」となづけ、イイスス・ハリストスが宣教に出られたことを記念する。小聖入の後、聖使徒経(聖使徒行伝、7つの公書、聖パウルの14の書札〔書簡〕からなっている)からある部分を誦経する。その後、こんどは、司祭あるいは輔祭が宝座から福音書を王門の所に出し、その一部分(日課)を読経する。啓蒙者の聖体礼儀は啓蒙者のために祈る連祷で、祈りの後に啓蒙者は聖堂から去るように誦し、信者の聖体礼儀には洗礼を受けない者の参加することが許されないことを教えている(最も今日ではこのことは実際的には行われず、儀式として残っているにすぎない)。

〔3〕信者の聖体礼儀

信者の聖体礼儀は「連祷」(エクテニア)ではじまり《ヘルヴィムの歌》とよばれる聖歌が唱えられる。この祈祷の時、司祭と輔祭は厳粛に機密執行のため準備されたパンとぶどう酒を、奉献台から北門に出て王門を通して宝座に移す。これを「大聖入」となづけ主がイエルサリムに入城したことを記念する。ヘルヴィムの歌の後、再び連祷を誦し歌い《我れ信ず》の言葉ではじまる祈り《信経》を歌唱する。信経はニカイア・コンスタンティノポリスの信経で、ある教会では全ての信徒によって誦される。信経の後、聖祭品の聖変化がはじまる。司祭が《主に感謝すべし》と唱し、聖歌隊はこれに答誦し、神に感謝してその恩寵を祈り、その祈りを誦読することから始まる。

祈りは神が私たちの祈祷と讃美とを受けられるように、また天にては天使が讃美すること、を内容とするものである。それから司祭は救主の降臨を記念し、また、救主が私たちのために救いをほどこし受難したことを記念する。この瞬間「愛の晩餐」を記念し、司祭は高声でパンがその尊体となり、ぶどう酒がその尊血になるという救主の言葉をくりかえす。

「取りて食え、これ吾が体、なんじらのためにさかるゝ者、罪のゆるしを得るを致す」。

「皆、これを飲め、これ吾の新約の血、なんじら、及び多くの人のために流さるゝ者、罪のゆるしを得るを致す」。(マトフェイ〔マタイ〕26・17—35、マルコ14・12—31、ルカ22・8—38、イオアン〔ヨハネ〕18・1—30)。

この部分の聖体礼儀の時、信者は特別な敬虔をもって教会の中に立つ。それは最も重要な聖体礼儀の瞬間に入るからである。司祭は聖祭品を高くあげて《なんじの賜をなんじの諸僕より衆のため一切のためになんじに奉りて》と誦し、パンとぶどう酒が救主の尊体、尊血になるため^{ミサ}聖神(聖霊)を降すことを主に願う。聖歌隊はこの時《主よなんじを崇め歌い、なんじを讃めあげ、なんじに感謝し、我が神よなんじに祈る》を歌う。

《この餅をもって、なんじのハリストスの尊体となし、「アミン」。この爵^{ツボ}中の者をもってなんじのハリストスの尊血となし、「アミン」。なんじの聖神をもってこれを変化せよ、「アミン、アミン、アミン」》。この時、聖神は聖祭品を聖変化させ、信者はおののきをもって地に伏拝する。

正教会における“Transubstantiation”の語は必ずしも西方教会(カトリックやプロテスタント)のそれとは一致しない。聖体に対してリアリステックな態度をもち、これを単なる聖性のシンボルと見ないし、感覚をもって知覚できる精神的実在の賜物とみなす。すなわち聖体機密においてパンとぶどう酒の変化は変化する状態を示すことより、聖変化そのもののリアリティを示す。聖変化のおこる前に聖神の降る祈りがある。《エピクレシス》である。

司祭の高声後、神の母マリヤへの敬拝の歌を唱し、死者と生者を記念する。連祷の後《天主経》があり、王門の幕は閉ざされ、司祭や輔祭は至聖所の中でハリストスの尊体、尊血を領聖し、つづいて王門が開けられ司祭は聖匙(スプーン)で信者に御聖体をさづける。聖体礼儀の終わり近く、聖祭品は奉献台にもどされ、司祭は聖堂の中央で「アンムウオン外の祝文」とよばれる祈祷を歌唱する。ここで聖体礼儀が終る。司祭は最後に聖十字架をもってアンムウオン(升壇)に立ち信者は十字架に近づいて接吻しプロスフォラの一片を受ける。これをアンチドルとなづけるが《聖祭品の代り》の意味である。アンチドルを受けた後、信者は領聖をするに値する恩寵をたまわること主に願わなければならない。

(4) 7つの機密(Mysterion)

聖体礼儀は聖体機密を中心にした礼拝であり、聖体機密は正教会にある7つの機密の1つである。機密とは、聖神の不可見的恩寵、すなわち、救いの能力(ちから)が奥妙に人に可見的にさづけられる聖なる礼拝のことを言う。正教会は聖機密がイイスス・ハリストスによって設けられ聖使徒たちを通じて今日まで至ったと信仰することは前述したが、今日の機密の特徴としては、聖機密は①聖使徒たちの後継者である主教・司祭などによって教会で行われるものであり、②機密執行には、洗礼の時の水、傅膏(堅信礼)の時の聖油のように可見的事物が使用され、③機密執行には正教会の伝える定まった祈祷文や礼拝により、④洗礼が教会に入る手段(方法)である以上、他の全ての聖機密は洗礼を受けたハリストステニオン(キリスト者)だけになされる、などがある。聖機密は7つある。(1)洗礼式(Baptism)(2)傅膏式(Chrism—Confirmation)(3)聖体式(The Holy Eucharist—The Divine Liturgy)(4)痛悔式(Penance)(5)神品式(Holy Order)(6)婚配式(Matrimony)(7)聖傅式(Unction)。聖機密はローマカトリック教会の sacrament のごとく7つあるが、正教会では7つの数字にこだわらず他にも多くの機密的なものがあると考えている。信・望・愛によってなされる全ての行いは神の神(しん)によって人を感悟させ、神の見えざる恩寵を伝えることである。例えば主の洗礼式に行われる水を成聖する大聖水式はその典型的なものである。

聖機密が執行される場所は原則として聖堂の中であるが、個人の住宅や他の所で執行される時もある。執行される時は、洗礼式が教会の大祭の聖体礼儀執行前、痛悔式が聖堂で聖体礼儀の執行される前晩あるいは2、3日前、神品式が聖体礼儀執行中、婚配式は教会の定めた日、聖傅式は、時を定めず行われる。

ある機密はその執行の時や、場所について詳細な規則が定められている。聖機密のあるものを公祈祷と区別して私祈祷とよぶ時もある。

(5) 礼拝の「時」について

正教会では1日の祈祷の時が定められている。1日は晩課、早課、聖体礼儀の3部類に区別され、晩課は9時課、晩課、晩堂課、早課は夜半課、早課、1時課、聖体礼儀は3時課、6時課、聖体礼儀より各々成り立っている。1日の祈祷は正教会によると、晩、朝、昼の3つの時期に行う。1日の聖務日課が定められているように、1週間の毎日が、何かを記念する日にあてられている。日曜日には主の復活、月曜日には神の使い、火曜日には諸予言者と授洗者前駆イオアン(ヨハネ)、水曜日には主がイウダに売られたこと、木曜日は聖使徒たちと聖ニコライ、金曜日には主の受難及びその死、土曜日には諸聖人並びに死者の記念を各々行うことになっている。

また1年には大祭、中祭、小祭などの教会祝祭日がある。大祭をあげると(1)救主降誕祭、(2)神現祭、(3)迎接祭、(4)聖母福音祭、(5)変容祭、(6)聖母就寝祭、(7)聖母誕生祭、(8)聖十字架挙栄祭、(9)聖母進堂祭(以上9大祭は定日祭として日が定まっている)、(10)聖枝祭、(11)復活大祭、(12)昇天祭、(13)聖神降臨祭(以上4つの大祭は復活大祭が不定なので移動祭日と言える)。これらの内、復活大祭は正教会最大の祝祭日である。中祭としては聖使徒ペートル・パウエル祭、聖母庇護祭、聖ニコライ祭、聖イオアン祭などたくさん数えられ、小祭に至っては列挙できないほど多い。また、祭日に伴う斎日が4季折々にある。春斎は復活大祭前の四旬大斎、夏斎はペートル・パウエル祭の前、秋斎は聖母就寝祭前、冬斎は救主降誕祭前(別名フィリップの斎)などがある。斎日についても詳細な規定が教会にある。(長司祭 プロクル 牛丸 康夫)

聖體禮儀

我が霊ヨ主ヲ讃メ崇ゲヨ

大主教ニカノル 作曲

ワガタマシヒヨシヲホメア ゲヨ シヨナヂハアガノホ メ

ラル ワガタマシヒヨシヲホメアゲヨ ワガココロヨソノセイ

ナルナヲ ホメアゲヨ ワガタマシヒヨシヲホメ アゲヨ

ソノスベテノオヲワスルルナカ レ カレハナヂガスベテノ

フウヲユル シ ヲヂガスベテノヤマヒヲイヤ ス

ヲヂノイノチヲホロビヨ リスクヒ アハレミトメグミヲ

オヂニカ ムラ セ ヨキモノニテオヂノノゾミニ

アカシム オヂガワカガヘルコトワシノゴト ク

ワガタマシヒヨ シヲホメアゲヨ ワガココロヨソノ

セイナルナヲ ホメアゲヨ シヨオヂハアガメホメラル

我が霊や主ヲ讃メ崇ゲヨ

チエスノコフ作曲

ワガタマ シヒヤ シヲ ホメアゲヨシヤ

シヤオヂハアガメホメラル ワガタマシヒ

ヤワガタマ シヒヤ シヲ ホメアゲヨ ワガチウシヤソノ

セイナルナヲ ホメアゲヨシヤ オヂハアガメホメラル

神ノ一人ノ子

ボゴスロウスキ作曲

多 エイハチチト コトセイシニ キスイ マモ
 f クワ エイハチチト コトセイシニ キスイ マモ
 f

イツモヨヨ ニ ア ミシ カミノヒトリノ
 p p pp
 イツモヨヨ ニ ア ミシ カミノヒトリノ
 p pp pp

コ コトバヨシセ ザルモノ
 pp
 コ コトバヨシセ ザルモノ ニシテ ワレラノス
 pp pp

ワレラノス クヒノタ メ
 クヒノタ メ タ ノアマシ
 p pp

セイナル シウシチウ エイテイ
 pp
 ジテ セイナル シウシチウ ドオウマ
 pp

ヒ ト ト ナ
 pp
 リヤヨリミヲ トリカミノ セイヲカヘズシ テヒトトナ
 pp

リ ジュ
リ ジカニカケ ラレ シヲ モテシヲホ ロボ

シシ ス カ ミ ヨ セ イ サ シ ノ ヒ ト ツ ト シ テ ナ

チ ト セ イ シ ト ト モ ニ サ ヲ セ ラ ル ル シ

ヨ ワ レ ラ ヲ ス ク ヒ タ マ ヘ タ マ ヘ

真 福 九 端

スモレンスキイ作曲

シ ヨ テ デ ノ ク ニ ニ キ タ ヲ ト キ ワ レ ラ ヲ オ モ ヒ タ マ ヘ

シ ノ マ ツ シ キ モ ノ ハ サ イ ハ ヒ ナ リ テ シ ゴ ク ハ カ レ ラ ノ

モ ノ ナ レ バ ナ リ ナ ク モ ノ ハ サ イ ハ ヒ ナ リ カ レ ラ ハ

ナグサメヲ エトスレ バナリ ホジナルモノハ サイハヒナ

リ カレヲチツガント スレバナリ ギニウヘカハクモノハ

サイハヒナ リ カレヲアクト エトスレバナリ

アハレミアルモノハ サイハヒナ リ カレヲアハレミヲ

エトスレバナリ ココロノキヨキモノハ サイハヒナ リ

カレヲカミヲミントスレバナリ ワヘイヲ オコナフモノハサイハヒ

ナ リ カレヲカミノコト ナツケラヒト スレバナリ

ギノタメニ キチクセラルモノハ サイハヒナ リ

テゴクハカレヲモノナレバナリ ヒトワレノタメニ ^{ツカ}キチクセラルモノハ サイハヒナ リ

キチクシ タデヲノコトヲイツハリテ モロモノ アシキコトヲ イシ

トキハ ンヂラ サイハ ヒナリ ヨロコビタノシメヨ

rit.
テニハ ンヂラノムケ オホケレ バナリ

重 聯 禱 (福音後)

神父 パンコウスキイ作曲

シヨウ エイハ ンヂニキス ヌ エイハ ンヂニキス イボラ エチ

1 2 1³
デボタ シアハレメヨ シアハレメヨ シアハレメシ

2⁴
シアハレメヨ シアハレメ シアハレメ シアハレメヨ

3 4
シアハレメ シアハレメ シアハレメヨ

5
シアハレメヨ シアハレメ シアハレメ シアハレメヨ

6
シアハレメ シアハレメ シアハレメヨ

聯 禱 (福音後カラ、ヘルウムノ歌マデ)

チェスノコフ作曲

シヨウ エイハ ンヂニキス ヌ エイハ ンヂニキス イボラ エチ

シアハレメ シアハレメ シアハレメヨ

アハレメヨ

ヨ シアハレメ シアハレメ シアハレメ ヨ

シ アハレメ シアハレメ シアハレメ ヨ

ア シ シアハレメヨ シアハレメヨ シ ヅガニ

ア シ シアハレメヨ シアハレメヨ

ア シ シアハレメヨ シアハレメヨ

ヘルワムの歌 (シモノフスカヤの調)

作曲者 不明

レ ラ オホ ミツニシ テワ レラ

オホ ミツニシ テ オホ ミツニシ テ

ワ カ タ ド リ ヘル ヴ カ タ ド

リ ヘル ヴ カ タ ド

セ イサ ノ ウ タ イ

ノ チヲ ホド コ ス ホ ド コ ス

サ シ ニ ウ タ ヒ テ サ シ ニ ウ タ ヒ

テ サ シ ニ ウ タ ヒ テ

イ マ コ ノ ヨ / イ マ コ ノ

ヨ / コ / ヨ / モ パ カ

リ ヲ オ モ ン パ カ リ ヲ シ リ

ソ ク ベ シ

① 主 敬 / 祈 禱 / 時 々 ② ス コ シ ハ ヤ ク
ア ミ ア ミ シ シ ノ ゲ ン ノ ミ エ ズ シ

テ ニ ナ ヒ タ テ マ ツ ル タ テ マ ツ ル

ジ ユ ウ ノ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ

イ タダ カント ス ル ニ ヨ ル

ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ

ヤ ア リ ル イ ヤ

ヘルウィムノ歌

リスキ・コルサコフ作曲

ワレラ オ ミ ツ ツ
ワレラ オホ ミツ ニ オホ ミツ

ニ シ テ ワ レ ラ
ワレラ オホ
ワレラ オホ ミ

ツ ニ シ テ ヘル ヲ カ タ ド リ ヘル ヲ
ツ ニ シ テ カ タ ド リ

カ タ ド リ ヘル ヲ カ タ ド リ

セイ サン ノ ウ タ ヲ
セイ サン ノ ウ タ ヲ

セイ サン ノ ウ タ ヲ
セイ サン ノ

セイ サン ノ ウ タ ヲ
セイ サン ノ

ノ チヲホド コ スン シニウ タ ヒ テ

イ マ コ ノ ヨ ノ オ モ パ カ リ ヲ
イ マ コ ノ ヨ ノ オ モ パ カ リ ヲ

イ マ コ ノ ヨ ノ オ モ パ
イ マ コ ノ ヨ ノ

カ リ ヲ シ リ ゾ ク バ シ シ リ ゾ ク シ リ
シ リ ゾ ク バ シ

ゾ ク ベ シ シ リ ゾ ク ベ シ ア ミ

シ シノグノミ エ ツ
シ シノグノミ エ ズミエ ズシテニ

ナ ヒ タ テ マ ツ ル シ ヌ ウ ノ
シ ヌ ウ ノ

イ タ ダ カ ン タ ナ ナ
イ タ ダ カ ン タ ナ ナ

リ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ
リ ア リ ル イ ヤ

ヘルウィムノ歌 リオッスキイ作曲

オ ホ ミ
オ ホ ミ

ツ ニ シ テ ヘ ル

ツ ニ ヘ ル

カ タ ド リ イ

カ タ

サシ

イ ヲ

イ ヲ ホ ド コ ス サ シ

イ ヲ ホ コ サ シ

(monando) バツキリトツカニ

ニ シ テ イ マ コ

ニ シ テ イ マ コ

ノ ヨ ノ オ モシ パ カ リ

コ ト コ ト

ユツクリ

シ リ ヲ ク

morendo ガンダシツヨク

シ

イッショニハツキリトツヨク

シ シ ノ ミ

テ ニ ナ ヒ タ テ マ ツ ル ユ カ ヲ

crescendo *expressivo*

ヲ イ タ ダ カ ト ス ル ニ ヨ ル ア リ

ル イ ア ア リ ヨ ツ ク

sotto voce *crescendo*

ア リ ル イ ア

ヘルウィムノ歌(第七)「ツアルスカヤ」

ボルトマンスキイ作曲

ア レ ラ オ ホ ミ ツ ニ シ テ

ヘル ヴィ ヲ ヘル ヴィ ヲ カ タ

セ イ ヤ

サン ノ ヲ タ ヲ イ ノ チ ヲ ホ ド コ ス

サン ニ ヲ タ ヒ テ

イ マ コ ノ ヨ ノ オ モ パ カ リ ヲ

Treble: *p* コ ト コ シ ツ ク
 Bass: *p* コ ト コ シ ツ ク

Treble: *rit.* ハ シ
 Bass: *p* ハ シ

Treble: ①主敬ハキノミ ② ア ミ ア ミ シノグノミ ヘズシテニ
 Bass: ア ミ ア ミ シノグノミ ヘズシテニ

Treble: ナヒタ テマ ツル ビン ム ノ ヲウ ヲイタダ
 Bass: ナヒタ テマ ツル ビン ム ノ ヲウ ヲイタダ

Treble: カシ ト スルニ ヨ ア リ ル イ ヤ ア リ
 Bass: カシ ト スルニ ヨ ア リ ル イ ヤ ア リ

Treble: *p* ル ヤ ア リ ル イ ヤ
 Bass: *p* ル ヤ ア リ ル イ ヤ

ヘルウィムノ歌(第八)

アルハンゲルスkey作曲

Treble: *pp* ヲ レ ラ オホ ミ ツ ニ シテ
 Bass: *pp* ヲ レ ラ オホ ミ ツ ニ シテ

Treble: ヘル ヴィム ナ カ タ ド
 Bass: ヘル ヴィム ナ カ タ ド

Treble: *rit.* リ ル ヴィ ヲ カ タ
 Bass: *p* リ ル ヴィ ヲ カ タ

Treble: *dim.* ド *pp* リ *pp* セ イ サン
 Bass: *pp* ド *pp* リ *pp* セ イ サン

ノ ウ タ フ イ ノ チ フ

ホ ド コ ス ノ

セ イ サ シ ニ タ タ ヒ テ

rit. *dim.* *pp*

イ マ コ ノ ヨ オ モ バ カ

イ マ コ ノ ヨ オ モ バ カ リ フ

シ リ ツ ク ベ シ リ

pp *p* *rit.*

ソ ク ベ シ ア シ シ シ ノ ズ ノ ミ ヘ ズ シ

テ ニ ナ ヒ タ テ マ ツ ル ユ ウ ノ

フ フ イ タ ダ カ シ ユ ウ ノ

イ タ ダ カ シ タ ヲ ナ

Handwritten musical score for "Lied der Nachtigall" by Franz Schubert. The score is in 3/4 time, key of B-flat major, and consists of two systems. The first system has a treble staff with a melody and a bass staff with a piano accompaniment. The second system continues the melody and accompaniment. The score is written in ink on aged paper.

A handwritten musical score for a piece titled "Lied der Nachtigall" (Nightingale Song). The score is written on two staves, treble and bass clef, with a key signature of three flats (B-flat, E-flat, A-flat) and a common time signature (C). The music features a melody in the treble staff and a supporting bass line in the bass staff. The notation includes various note values, rests, and dynamic markings such as "p" (piano) and "f" (forte). There are also some handwritten annotations in German, including "Lied der Nachtigall" and "Nachtigall". The score is written in ink on aged paper.

ヘルウィムノ歌 (ワイガ・ラズボイ、クノ調)
ワレラ オ ミ チェスノゴフ 作曲 33の6番

Largo

Largo

Chopin 作曲

ピアノ (p) / 弱音記号

pp (pianissimo) / 極めて弱音記号

レラ オホ ミ ツニ シテ

レラ オホ ミ ツニ

オホ ツ ニ オホ ツ シテ

(繰返ス)

pp

ル ヲ フ

pp

ル ヲ フ

ル ヲ フ カ タ

ド リ

ヘイ サイノウ タヲ セイ サイノウ タヲ ドリ

鳥の歌

イ ノ チ ヲ

ホド コ ス サ シ ニ ウ

タ ヒ テ

セ イ サンノウタ サニシタヒテ

イマゴ / ヨ / イマゴ / ヨ / オモパ カ リ ヲ

イ マコ' ヨ ノ オ モシ パ カ リ ヲ

マ ヨ / オ モシ パ カ リ ヲ

イ マ イマ コノヨノオ モン パ カ リ ヲ

シ リ ソク シ リ ソク
シ リ ソク
シ リ ソク

1 主 教 ノ キ ノ ミ 2
シ リ ソク ベ シ ア ミ
シ リ ソク

シ シ シ シ シ シ シ シ
シ シ シ シ シ シ シ シ
シ シ シ シ シ シ シ シ

ニ ナ ヒ タ テ マ ツ
ル バ シ ヲ

ワ ヲ イ タ ダ カ イ タ ダ カ タ

ア リ ル イ ア ア リ ル イ ア リ

ル イ ア
ル イ ア

ヘルウィムノ歌 (イロニエフスカヤノ調) 作曲 27.
チエスノ作曲

ワ レ ラ オホ ミ

ツ ニ シ テ ハ ル

カ タ ド リ

カ タ ド リ

サ ン

フ

イ ノ チ フ

ホ ド コ ス サ シ ニ ウ タ ヒ テ

ウ タ ヒ テ

ヨ ノ オ モ

カ リ フ オ モ

リ ヲ シ リ ゾ ク

ベ シ シ リ

ゾ ク ベ シ リ ゾ ク ベ シ

シ シ ノ ン ノ ミ

エ ズ シ テ ニ ナ

ヒ タ テ マ ツ ル

フ ン コ ノ ヲ ベ ン

コ ノ ノ ヲ コ イ タ ダ

イ タ ダ カ ン イ タ ダ カ

イ タ ダ カ ン イ タ ダ カ リ タ

アリル イヤ

ル イヤ リル イヤ

信 經 (我 信ズ)

グレチアニフ 作曲

Allegro mf
ヒトツノカミ チチゼ

Вѣрую во одинаго Бога оца все держителя

テトチ ミユルト ミエサル

творяща небу и земли, видимым же всем и невидимым

マタシズ ヒトツノ

и во одинаго Господа Иисуса Христа, сына Божь,

ヨロツノ サキニ

иже о Оца рожденного прежде всех век. Света о света,

ヒカリ マコト

Бога истинна о Бога истинна,

ウマレテツクラレ

рожденна, несотворенна, единосущна ^с Оцу ниже вся бы

ツクラレ

Нас ради человек, и нашего ради спасения

rallentando
テヨリク

сшедшаго с небес, и во плоти явшаго во Духа обята

adagio

トリヒトトナリ フレヲノタメホテヒヲトナリ ジジカニ

и Мария девы, и возвергшаяся. Распятаго же за ны при Понтии

カケラレ クルシミ ホウムラレ

Пирате, и страдавши, и погребенна,

a tempo

シカメニセイシニカナフテフクツシ テニノボリ

И воскресшаго в третій день по писанию. И возшед

チチノミギニザシ クエイヲモ, テイケルモノト

на небеса и сядуща одесную Сѣа. И пакы грядущаго со

シセルモノヲシシスルタメニマタキタリソノクニオハリナカレヲ

судити живых и мертвых, его же царствити не будет кон

マタシズセイシシイノチヲホドコスモノチヲヨリイテ

И в духа святаго, господа животворящаго, иже оубо исхождаетъ

チチトコトモニオガマレホメラレヨギノヒシガゴトシ

Иже со бром и свѣтии стокланъи и славиши маголабни

マタシズヒツノセイナルオヤケナルシト, Кукイヲ

Во сдѣну свѣтлѣ, собѣрнуго, и апѣстольскую церков.

フレミトムヒツノセ, Рейモ, テツミノユルサルルヲ

Исповѣдую едино крещеніе те оставленіе грѣхѣ

フレノゾムシヤ, ノクツツ ライセイノイノチヲアミ

Цаго воскресенна мертвых: И жизни будущаго века. Аминь

平和ノ憐(第二)

アルハンゲルスキイ作曲

p ハイワノ アハレ ミサノ ヨマ ツリ ヲ

ナゲトト モニモ *mf* ニムカヘリ *p* ナ

チトコトセイ シンイツ タイニシ テワカレサル

サン シニ フシオガムハフシオ

ガムハツゼンニシテギ ナリ

f セイセイイセイナル カナシサワ オナジノ

クハ テンチニミツ イトタ

カキニオサン *pp* ナシノナニ ヨツテキタルモノ

ハツキリト
ハアガメホメラルイ トタカキニオ

サン ナ *p* *p* *p* *p*

シ ャ タ チ ヲ ア ガ ノ ウ タ ヒ

シ ャ タ チ ヲ ア ガ ノ ウ タ ヒ

タ ギ フ ホ メ ア ゲ タ ギ ニ カ ン シ カ ン シ

タ ギ フ ホ メ ア ゲ タ ギ ニ カ ン シ カ ン シ

シ ヲ ガ カ ミ ヤ タ ギ ニ イ ノ

シ ヲ ガ カ ミ ヤ タ ギ ニ イ ノ

ル ヲ ガ カ ミ ヤ イ ノ ル

ル ヲ ガ カ ミ ヤ イ ノ ル

イ ノ ル

イ ノ ル

平和ノ憐(第三)

アレハングルスkey作曲

ヘ イ ワ ノ ア ハ レ ミ サ ヨ ノ マ ツ リ ヲ

ヘ イ ワ ノ ア ハ レ ミ サ ヨ ノ マ ツ リ ヲ

タ ギ ト ト モ ニ モ シ ニ ム

タ ギ ト ト モ ニ モ シ ニ ム

カ ヘ リ チ チ ト コ ト セ イ

カ ヘ リ チ チ ト コ ト セ イ

シ イ タ イ ニ シ テ ヲ カ レ サ ル

シ イ タ イ ニ シ テ ヲ カ レ サ ル

サ シ ニ フ シ オ ガ ム ハ フ シ オ

サ シ ニ フ シ オ ガ ム ハ フ シ オ

ガムハトホ セニシテギナ

リ セイセイナルカナシ

サワ オフ シュ サ ワ オフ チノ ズ エ

イハテチ ニミツ イトタ カキニオ サンナ

シヅカニ シノナニ ヨテキ タルモノ ハア ガメホノ

ラル イ ト タ カキニオ サンナ

ア ミシ ア

ミシ ヨ チヂヲアガメヲタヒ

カナシク チヂヲホメ ア ゲチチニカン シヤ

シワガ カミヨ チヂニイ ノル ワガ カミヨ

ナヂニイ ノ ル ワ ガ カ ミ ヨ ナヂニイ ノ ル

平和ノ憐(第七) アルハンゲルスキイ作曲

ヘ イ ワ ノ ア ハ レ ミ サ シ ヨウ ノ マ ツ リ ヲ

ナヂ ト ト モ ニ モ シ ユ ニ ム カ

ハ リ チ チ コ ト セ イ シ

イッ タイ ニ シ テ ワ カ レ ガ ル セ イ

サ シ ャ ヲ フ シ オ ガ ム ハ ト セ ニ シ テ キ

ナ リ セ イ セ イ セ イ ナ ル

カ ナ シ サ ワ オ フ ナ シ ナヂ ノ ク ヲ エ イ

ハ ナヂ ノ ク

エ イ ハ テ チ ニ ミ

ツ イ ト タ カキニオ サン ナ イ ト タ

カキニオ サン ナオ サン ナ シ ナニ

ヨッ テキタル モノハ アガメ ホ メ ラルイ

ト タ カキニオ サン ナオ サン ナ

ア ミ

シヤチ ア ガメ タ ヒ ナチヲホ

メ ア ゲンチニカン シ ヲガ

カミヨ ナチニイ ル ヲガ カミヨ

ナチニイ ル ヲガ カミヨ ナチニイ

ルイ ル ナチニイ ル

平和ノ憐

ソコロ作曲

ハ イ ノ ア ハ レ ミ サ シ ヨウ ノ マ ツ リ ヲ

チヂ ト モ ニ モ ニ ム カ ハ

リ チ ト コ ト セ イ シ イッ タイ ニ イ

タイ ニ シ テ ワ カ レ サ ル サ シ ニ

フ シ オ ガ ム ハ タ

ゼン シ テ ギ ナ リ

セイ セイ セイ ナル カ ナ シ サ ワ オ

チヂノ クウ エイ ハ テン チニ ミツ イ ト タ カキニ オ

サン ナ オ サン ナ オ サン ナ オ

サン ナ イ ト タ カキニ オ サ ナ

シノナニ ヨッ テキ タルモノ ハ ア ガメ ホメ ラル
キ タルモノ

イトタ カキニオ サナ オサ
イトタカキニオ サナ
オサ

ナ ア ミ ア ミ
ナ ア ミ ア ミ

シヤ タチ ア カメウ タヒ
タチ ア ガ メウ タヒ タチ

タチヲ ホ メ ア ゲ タチ
ホ メ ア ゲ

シノナニ ヨッ テキ タルモノ ハ ア ガメ ホメ ラル
ワ ガ カ ミ ヤ タチ デニイノ

ル イ ノ
ル イ ノ

平和ノ隣 チェスノコフ作曲

ヘイワノアハ レミサヨノマ ツリヲ
ヘイワノアハ レミサヨノマ ツリヲ

タチトモニモ シニムカヘリチ
タチトモニモ シニムカヘリチ

チトコトセイシイタイニシテワカレ
チトコトセイシイタイニシテワカレ

サ ル サ シ ニ
ワ カ レ ザ ル サ シ

フ シ オ ガ ム ハ ト ホ
ゼ ニ シ テ ギ ナ リ セ イ セ イ

セ イ ナ ル カ ナ ミ サ ワ
オ タ ギ ノ

エ イ ハ テ チ ニ
ミ ツ タ ギ ノ エ イ ハ

テ チ ニ ミ ツ イ ト タ
カ キ ニ オ サ シ ナ

シ ュ ノ ナ ニ ヨッ テ シ ュ ノ ナ ニ ナ ニ

ヨッ テ キ タ ル モ ノ ハ ア ガ メ ホ メ ラ ル

イ ト タ カ キ ニ オ サ シ ナ イ ト タ カ キ ニ オ

サ シ ナ イ ト タ カ キ ニ オ サ シ

ナ オ サ シ ナ ア ミ ア ミ

シヨ ナチ ヲ アガメウ タ ヒナチ ヲ ホメ

シヨ ヲ タヒ ナチヲ

ア ゲ ナチ ニ カ シ カシ キ

ホメアゲ ケ シ ナチニカシ

ワガ カ ミヨ ナチニイ ノル ナチニイ

ス ヲ

ワガ カミヨナチニイノル

ノル イノル イノル イノル

常ニ幸ニシテ

アゼエフ作曲

ツ ネニ サイハヒニシテ ヲ タクキズナキ

ノル

シヨ シ ナチ ヲ ガカミノハハ ナルナチヲ

サビスルハマ コトニアタ レリ ヘルヲヨリト

ホ

トクセラ フニナラビ ナクサ カヘ

nt. dim. p pp

ミサヲヲヤブ ラズシテ カミコト バヲウミシ

ジツノシ シナチタル ナチヲアガ

チャイコフスキ作曲

メ ホ ム

天 主 經

スミルノフ作曲

テニイマスワレラノチチ ヤ ネガハクハタチノナハセイト

セラレタチノクニハキタ リ ナチノムネハ テニオコナハ

ルルカゴトクニモ オコナハ レン ワガニチヨノ カテヲ

コニチワレラニアタヘタマヘ ワレラニオヒメアルモノヲ

ワレラユルスガゴトクワレラノオヒメヲユルシタマヘ

ワレラヲイザナヒニミチビカズ ナホワレラヲ

キョアクヨリスクヒタマヘ

コンツエルト

喜ビテ神我等ノ固メニ

ボルトニヤンスキ作曲

ヨロコビテカミワレラノカタメニウ

タ ヒ イ ア ヲ ノ カ ミ ニ ヨ ベ

ヨ ロ コ ビ テ カ ミ フ レ ラ ノ カ タ メ ニ ヲ タ ヒ

ワ レ ラ ノ カ タ メ ニ ヲ タ ヒ
カ タ ノ ヲ ニ ヲ

タ ヒ ヲ
タ ヒ イ ア ヲ ノ カ ミ ニ ヲ ベ ヲ
ラ ノ カ タ ノ ヲ

タ ヲ ト リ ヲ タ ヲ ト リ ヲ
タ ヲ ト リ ヲ
ウ タ ヲ ト リ

タ ヲ ト リ ヲ タ ヲ ト リ
ウ タ ヲ ト リ

ツ ツ ミ ト カ キン ト シ ヲ ヲ ア タ ヘ ツ ツ ミ ト カ

キン ト シ ツ ト ヲ タ ヘ シ ツ ト ヲ
ア タ ヘ

ア タ ヘ ヲ タ ヲ ト リ ツ ツ
ウ タ ヲ ト リ

ミ ト カ キン ト シ ツ ト ヲ ア タ ヘ シ ツ ト ヲ
ウ タ ヲ ト リ

タヘヨ ツツミトカ キントシツ

シ ツ ト

ヲ アタヘ ヨ ケ ダ シ カレハ

ヲ アタヘ ヨ ケ ダ シ

ワガカミ ナリ ワガカミ ナリ

ワガカミ

ワガカミ ナリ カレハ ワガタスケ ナリ

ナ

ワガタテ ナリ ワガタテ ナリ

ワ

リワ ガタテ ナリ カレハワ ガタ

ガ タ テ ナ リ ワ カ

ガ タ テ カ レハワ ガ

タ スケ ナ リ タテ ナリ タテ ナ

タ スケ ナ

リケ ダシ カレハ ワガカミ ナ

ワガカミ ナリ ワガカミ ナリ

ワガカミ ナリ

ガタテ ナリ ワガタテ ナリ

ワガタテ

テ ナ リ ケ ダ シ カ レ ハ

ワ ガ カ ナ リ ワ ガ カ ミ ナ リ

ワ ガ カ ミ ナ リ ワ ガ タ ス ケ ナ リ ワ ガ タ テ ナ

リ カ レ ハ ワ ガ タ テ

ナ リ タ ス ケ ナ リ タ メ ナ リ

第一 コンツェルト

ホルトニヤンスキー作曲

アラタ ナ ル ウ タ ヲ 主 ニ ウ タ ヘ

アラタ ナ ア ラ タ ナー ル ウ タ ヲ

主 ニ ウー タ ヘ ア ラ タ ナ ル ウ タ ヲ

主 ニ ウ タ ヘ ヨ アー ラ ター ナ ル ウ

アー ラ ター

タ ラー 主 ニウ タ 主 ニウ
ナ ルウ タラ 主 ニウ タ

ターヘ 主 ニウ タヘ ソノサン
主 ニウ タヘ ソノサン

サン ビハ セイ シヤ ノ
— ビハ セイ シヤノ セイ シヤ ノ クー イ ニー
— ビハ セイ シヤ ノ

セイ シヤ ノ クー イ ニ ア リ
ソノサン
アリ セイ シヤ ノ クー イ ニ ア リ ソノ

— ビハ セイ シヤノ セイ シヤ — ノ クー イ ニ
サン ビハ セイ シヤノ セイ シヤ ノ クー イ ニ

アリ セイ シヤ ノ クー イ ニ ア リ
アリ セイ シヤ ノ クー イ ニ ア リ

イラ イハオノ レノサン セイ シヤノ タ メ ニ タノ
イラ イハオノ レノサン セイ シヤノ タ メ ニ タノ

シムベ— シ シオン — ノ ショ シハオ
シムベ— シ シオン — ノ ショ シハオ

ノ レノ王 ノ タ メ ニ ヨ ロ コ ブ ベ シ
ノ レノ王 ノ タ メ ニ ヨ ロ コ ブ ベ シ

王 — ノ タ メ ニ ヨ ロ コ ブ ベ

シ — オ ノ レ ノ 王 ノ タ メ ニ ヨ ロ コ ブ ベ シ オ

ノ レ ノ 王 ノ タ メ ニ ヨ ロ コ ブ ベ シ オ ノ レ ノ

王 ノ タ メ ニ ヨ ロ コ ブ ベ — シ

ケッ ビ ノ ケッ ビ ノ モ ノ
ス ク ヒ ヲ モ ッ テ ケッ ビ ノ ケッ ビ ノ モ ノ
ケッ — ビ ノ モ ノ

ヲ サ — カ エ シ ム サ カ エ シ ム ス ク ヒ ヲ
ヲ サ — カ エ シ ム サ カ エ シ ム ス ク ヒ ヲ
ヲ サ カ エ シ ム ス ク ヒ ヲ

モ ッ テ サ カ エ シ ム ケッ — ビ ノ モ — ノ

サ カ エ シ ム サ カ エ
ヲ サ カ エ シ ム サ カ エ シ ム サ カ エ
サ カ エ シ

シム スク ヒラ モッテ サカ エ シム
シム ケン —

ケン ピノ ケン ピノ ケン ピノ モーサ
— ピノ モ ノ ラ サ カ

ラー サカ エ サ カ — エ シ ム
エ シ ム ケン ピノ モーノ

サ カ — エ シ ム サ
ケン ピノ ケン ピノ モーノ ラ ケン ピノ モーノ ラ サ
ラ サ カ エ シ ム サ

カー エ シ — ム ス ク ヒ ラ モッテ サ カ エ

ケン — ピノ モ ノ ラ サ
シム ケン ピノ ケン ピノ モーノ ラ サ — カー エ
シ ム ケン ピノ モーノ

カー エ シ ム
シム サカ エ シム ケン ピノ ケン ピノ モーノ
カ エ シ ム

ヲ サカ エ シ — ム ケン ピノ ケン ピノ モーノ

ヲ ケン ピノ モーノ — ラ サ カ エ — シ ム

歌もて我が神の名を讃めたたえん

二十九コンツェルト

ホルトニャンスキイ 作曲

Lento

鳥の歌 (The Song of the Lark)

ウォス ヲフ ヲイ ミヤ ホガモエゴ スベ x-イユ

オスワリ イマホ

ガモエ コ

A handwritten musical score for the song "The Rose Tree". The score is written on two staves, Treble and Bass, in G major (one sharp) and 2/4 time. The melody is in the Treble staff, and the bass line is in the Bass staff. The lyrics are written below the Treble staff. The score includes a key signature of one sharp (F#) and a time signature of 2/4. The melody is written in a simple, folk-like style with eighth and quarter notes. The bass line provides a simple accompaniment with quarter and eighth notes. The lyrics are written in a simple, handwritten font. The score is a single system, and the music ends with a final cadence.

Moderato

[illegible][illegible]

ウツス ウェリ リ ムエ ゴ フーフ レニイ

ウツス ウェリ リ ムエ フーフ レニイ

ウツス ウェリ ムエ ゴ フーフ レニ

イッスウエリ ヌエ ゴ

レニイ

イッスウエリ ヌエ ゴ

イッスウエリ ヌエ ゴ

イ オ ス ヲ リ ア イ ゴ イ オ ス ヲ リ ア イ ゴ ヲ

ニ イ

Andante

イ オ ス ヲ リ ア イ ゴ

ニ イ

イ オ ス ヲ リ ア ヲ

ニ イ ヲ ヲ

ニ イ

イ オ ス ヲ リ ア イ ゴ イ オ ス ヲ リ ア イ ゴ ヲ

イ オ ス ヲ リ ア イ ゴ イ オ ス ヲ リ ア イ ゴ ヲ

ニ イ

ニ イ

イ オ ス ヲ リ ア ヲ

ニ イ

イ オ ス ヲ リ ア ヲ

ハリストスの聖体をうけ

Бортнянского.

Д.
А:

pp

ТѢ - до Хри - сто - во прі - и - ми -
テエ ロ ハリ スト ヲ フリ イ ミ

Т.
Б.

pp

смерт - - на - го вку - си - те, вку -
スメル + ゴ 77- シ 4x 77-

Музыкальный фрагмент, состоящий из двух систем. Первая система содержит ноты для голоса и фортепиано. В голосе: «Сте. Ал-ли-лу-и-а.» (Сте. Ал-ли-лу-и-а.). В фортепиано: «Сте. Ал-ли-лу-и-а.» (Сте. Ал-ли-лу-и-а.). Вторая система содержит ноты для голоса и фортепиано. В голосе: «Сте. Ал-ли-лу-и-а.» (Сте. Ал-ли-лу-и-а.). В фортепиано: «Сте. Ал-ли-лу-и-а.» (Сте. Ал-ли-лу-и-а.).

— 77 —

Allegro

Handwritten musical score for "The Rose Tree" in G major, 2/4 time. The score is written on three staves: Treble, Alto, and Bass. The melody is in the Treble staff, with the Alto and Bass staves providing harmonic support. The lyrics are written below the staves. The score is marked with a key signature of one sharp (F#) and a common time signature (C). The piece concludes with a double bar line and repeat dots.

テ ベン シヤ テ ヲ ウ チ ジ シヤ テ ヲ ウ チ ジ シヤ

テ ヲ ウ チ

ジ シヤ テ ヲ ウ

テ ヲ ウ

チ ベン シヤ テ ヲ ウ チ ジ シヤ

テ フ ウ チ バ シ シ ヤ テ フ ウ チ ヨ ロ コ ビ ノ

テ フ ウ チ バ シ シ ヤ テ フ ウ チ ヨ ロ コ ビ ノ

テ フ ウ チ バ シ シ ヤ テ フ ウ チ ヨ ロ コ ビ ノ

[illegible]

Handwritten musical score for 'Uchi Bishite Youtchi' in G major, 2/4 time. The score is written on four systems of grand staves. The lyrics are in Japanese: 'ウチビシテ ヨウチ' and 'ヨロコビノコエヲモッテヨロコビノ'. The notation includes treble and bass clefs, a key signature of one sharp (F#), and a 2/4 time signature. The music features a mix of eighth and sixteenth notes, often beamed together, and rests. The lyrics are written below the notes, with some characters appearing above notes in the first system.

コンツェルト(降誕祭)

デ、リオフスキイ 訳

Handwritten musical score for "The Rose Tree" in G major, 2/4 time. The score is written on four systems of grand staves (treble and bass clef). The lyrics are in Japanese: ハリス トス ウ マ ル ア カ メ ホ メ ヨ ハリス トス テ ヨ リ ス ム カ ヘ ヨ ハリス トス チ ニ ア リ ア ガ レ ア ガ レ ヨ チ コ ソ テ ユ ニ ウ タ ヘ ウ タ ヘ ヨ チ コ ソ テ ユ ニ ウ タ ヘ ウ タ ヘ ヨ. The music features a simple melody with some grace notes and a steady bass line.

ヒ ト ビ ト ヤ タ ノ シ デ ア ガ メ

ア ガ メ ホ メ ヨ ヒ ト ビ ト ヤ タ ノ シ デ

ア ガ メ ア ガ メ ホ メ ヨ ソ ノ 光 エ イ ハ

カ ガ ヤ ケ バ ナ リ ソ ノ 光 エ イ ハ カ ガ ヤ ケ バ ナ リ

復活祭のコンツェルト

トウネツ シカ トワリ

デグタマリョーフ作曲

トウネツ シカ トワリ ウエ セ リット シイ ラ — トウエツ
(Du)

シ ウエ — セ リット シイ ラ トウエツ シ ウエ セ リット シイ ラ トウエツ
リット シイ ラ トウエツ シ ウエ セ リット シイ ラ トウエツ
ウエ セ

シ トウネツ シ カ トワリ トウネツ シ カ トワリ ウエ — セ
ウエ セ リット シイ
シ トウネツ シ カ トワリ トウネツ シ カ トワリ ウエ — セ

リット シェ イ ラ ドゥ エット シェ ウェ - セ リット シェ イ ラ ドゥ エット シェ ウェ セ

ラ ドゥ エット

リット シェ イ ラ ドゥ エット シェ ウェ セ

ウェ セ リット シェ イ ラ ドゥ エット シェ ウェ - セ

リット シェ イ ラ ドゥ エット シェ イ ラ - ドゥ エム シェ マ コ フリス

ウェ - セ リット - シェ イ ラ ドゥ エット シェ マ コ フリス

リット シェ ウェ セ リット - シェ イ ラ - ドゥ エット シェ

リット シェ イ ラ - - ドゥ エット シェ

トス ウォス クレ セ ウォス クレ セ ウォス クレ セ

トス

マ コ フリス トス ウォス クレ セ ウォス クレ セ ウォス

イ アッド - フレ ニ - シェ

シェ マ コ フリス

クレ セ イ アッド - フレ ニ - シェ

マ コ フリス トス マ コ フリス トス ウォス クレ セ ウォス クレ セ

トス - マ コ フリス

マ コ フリス トス マ コ フリス トス ウォス クレ セ ウォス

マ コ フリス

ウォス クレ セ イ アッド フレ ニ -

クレ セ ウォス クレ セ イ アッド - フレ ニ -

シメ イ アツド フレ

シメ イ アツド フレ

4エ ベ ヲス クレ シメ ゴ

ボ ガ

ナ シエ ゴ

ホ クラ シエ ペ ニイ

ウエ リー 4メ イム

メ コ クレスト イ

スメルチ プリ イメル エ シ

サ

ロッド ナシ

4エ ベ ヲス クレシメ ゴ

ボ ガ ナ シエゴ ボ グラ シエ ペ ニイ

ウェ リー 4x エム

クレスト イ スメルチ フリ イマル エシ フリ イマル エシエザ

ロット ナシュ ザ ロット ナシュ

イ スプロ ウェル ズ ア ドワ ヴラタ ウォ

スクレッス エシ トリ トゥニエ ヴェン トリ トゥニエ ヴェン オット グロ ヴァ ウォ

スグレス エ シー ウォ スグレス エ シー トリ ドーエ ウェン オット グロ ヴァ ウォ

スグレス エ シー ウォ スグレス エ シー トリ ドーエ ウェン オット グロ

ヴァ スパ サ マイ ナス スパ サ マイ

ナス マイ コ ナス ウロ ウェ コ

リュウ ヴェツ スパ サ マイ ナス スパ サ マイ ナス

ナス スパ サ マイ ナス スパ サ マイ ナス マイ コ

4エ ウロ ウエ コ リエウ ヴェツ ゴ スポジ スパサ マイ

4エ ウロ ウエ コ リエウ ヴェツ ゴ スポジ

ナス スパサ マイ ナス x - コ 4エ - ウロ

スパサ マイ ナス x - コ 4エ - ウロ

ウエ - - コ リエウ ヴェツ ゴ スポジ ゴ スポジ ゴ スポジ

ウエ - - コ リエウ ヴェツ ゴ スポジ ゴ スポジ ゴ スポジ

ヘルヴィム 第二番

ヤコフ・ハイ作曲

ワレ ラ ツツ シンテ ヘルグニット リット リ

セイ セ ノウタヲ イノチヲホドコスノセイ セ ニタ テマ

ツリテ コノ ヨノツトメヲシリゾクベシシリゾクベ シ

アシ カミノナミカ ルツカヒハ ミエズシテニナヒ タテマツ ル

ジブツノツカサヲホ ヒイタダケバナリ アリル イマ

ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ

ヘルヴィム 第三番

ワ レ ラ ツ ツ シ デ ヘ ル ヴ ィ ム ニ ッ ト リ ヘ ル ヴ ィ ム ニ ッ ト リ

セ イ サ ノ ウ タ フ イ ノ テ フ ホ ド コ ス ノ セ イ サ

キ ニ タ テ マ ツ リ テ コ ノ ヨ ノ ツ ト メ フ シ リ ゾ ク ベ ン

シ リ ゾ ク ベ シ ア シ カ ミ ノ ナ ミ キ ル ツ カ ヒ ハ

ミ エ ズ シ テ ニ ナ ヒ タ テ マ ツ ル ギ ブ ツ ノ ツ カ サ フ

オ ホ ヒ イ タ ダ ケ バ ナ リ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ

ヘルヴィム 第四番

ワ レ ラ ツ ツ シ デ ヘ ル ヴ ィ ム ニ ッ ト リ ッ ト リ セ イ サ ノ ウ タ フ

イ ノ テ フ ホ ド コ ス ノ セ イ サ キ ニ タ テ マ ツ リ テ

コ ノ ヨ ノ ツ ト メ フ シ リ ゾ ク ベ シ シ リ ゾ ク ベ シ

カミノナミキ ルツカヒハミエズシテニナヒタテマ

ツル ズグツノツカサヲ オホヒイタダケバナリ

ア リル イ ヤ ア リル イ ヤ ア リル イ

ヘルグイム 第五番

ワレラ ツツシデ ヘルグニツトリ セイサノウタヲ

イノチヲホドコ スノセイサニタテマツリテ

コノヨ ノツトメヲ シリゾクベシシリゾクベシ

ア シ カ ミ ノ ナ ミ キ ル ツ カ ヒ ハ ミ エ ズ シ テ ニ ナ ヒ

タテマツル ズグツノツカサヲ オホヒイタダケバナリ

ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ

ヘルグイム 第六番

ワレラ ツツシデ ヘルグニツトリ ヘルグニツトリ

セイサンノクタ イノチヲホドコスノ セイサンニタマツリテ

コノ ヨノツトメヲ シリゾクベシシリゾクベシ

アシカミノナミナルツカヒハミエズシテニナヒ

タテマソル ズグツノツカサヲホヒイタダケバナリ

アリルイヤアリルイヤアリルイヤアリルイヤアリルイヤ

ヘルグイム 第七番

ワレラツツシ デヘルグニツトリ セイサンノクタ

イノチヲホドコスノ セイサンニタマツリテ

コノ ヨノツトメヲ シリゾクベシシリゾクベシ

アシカミノナミナルツカヒハミエズシテニナヒ

タテマソル ズグツノツカサヲホヒイタダケバナリ

Handwritten musical score for the first system of 'Hergim No. 8'. It features a grand staff with treble and bass clefs. The melody is written in the treble clef, and the accompaniment is in the bass clef. The key signature has two flats (B-flat and E-flat). The lyrics are written below the treble staff.

ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ

ヘルグイム 第八番

マコタメ作曲

Handwritten musical score for the second system of 'Hergim No. 8'. It continues the melody and accompaniment from the first system. The lyrics are written below the treble staff.

ワ レ ラ ッ ツ シ デ ハ ル ズ ニ シ ト リ

Handwritten musical score for the third system of 'Hergim No. 8'. It continues the melody and accompaniment. The lyrics are written below the treble staff.

ヘル ズ ニ シ ト リ セ イ セ ノ ウ タ フ イ ノ チ

Handwritten musical score for the fourth system of 'Hergim No. 8'. It continues the melody and accompaniment. The lyrics are written below the treble staff.

ホ ド コ ス ノ セ イ セ ニ タ テ マ ッ リ テ コ ノ ヨ ノ

Handwritten musical score for the fifth system of 'Hergim No. 8'. It concludes the piece with a final cadence. The lyrics are written below the treble staff.

ウ ト ク シ リ ヅ ク ベ シ リ ヅ ク シ

Handwritten musical score for the first system of 'Hergim No. 9'. It features a grand staff with treble and bass clefs. The melody is written in the treble clef, and the accompaniment is in the bass clef. The key signature has two flats (B-flat and E-flat). The lyrics are written below the treble staff.

ア シ カ ミ ノ ナ ミ キ ル ッ カ ヒ ハ ミ エ ズ シ テ ニ ナ ヒ

Handwritten musical score for the second system of 'Hergim No. 9'. It continues the melody and accompaniment. The lyrics are written below the treble staff.

タ テ マ ッ ル ズ ズ ノ ッ カ サ フ ナ ヒ タ ダ ケ バ ナ リ

Handwritten musical score for the third system of 'Hergim No. 9'. It continues the melody and accompaniment. The lyrics are written below the treble staff.

ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ

ヘルグイム 第九番

ア・リ・ア・ス・ノ・作曲

Handwritten musical score for the fourth system of 'Hergim No. 9'. It continues the melody and accompaniment. The lyrics are written below the treble staff.

ワ レ ラ ッ ツ シ デ ハ ル ズ ニ シ ト リ ツ ト リ セ イ セ ノ

Handwritten musical score for the fifth system of 'Hergim No. 9'. It concludes the piece with a final cadence. The lyrics are written below the treble staff.

ウ タ フ イ ノ チ ホ ド コ ス ノ セ イ セ ニ タ テ マ ッ リ テ

コノ ヨノ ツト メヲ シリゾク ベシ シリゾク ベシ

ア シ カミノ ナミキルツカヒハミ エズ シテニナヒタデマツル

シラ ツノ ツカサヲ オ ヒイタダ ケバナ リ

ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ

ヘルグイム 第十番

リオフスキー作曲

ワレラ ツ ツ シ デ ヘル ヴニ ットリ ヘル ヴニ ットリ

ア シ カミノ ナミキルツカヒハミ エズ シテニナヒ

タ テ マ ツ リ タ オ ヨソコノ ヨノ ツト メヲ

シリゾク ベシ シリゾク ベシ

セイ シノ ヲ タ フイノ チヲ ホド コスノ セイ シノ

タ テ マ ツ ル ヲ ツノ ツカサヲ オ ヒイタダ ケバナ リ

ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ

ヘルヴィム番外一番

ボリニヤンスキー作曲

ワ レ ラ ッ ツ シ デ ヘル ニ ッ ト リ ワ レ ラ ッ ツ シ デ

ヘル ニ ッ ト リ ッ ト リ セ イ ノ ウ タ セ イ ノ ウ タ

ヲ イ ノ タ ハ ド コ ス ノ セ イ タ テ マ ツ リ テ

オ ヨ ソ コ ノ ヨ ノ ッ ト メ ラ シ リ ゴ ク ベ シ オ ヨ ソ

コ ノ ヨ ノ ッ ト メ ラ シ リ ゴ ク ベ シ シ リ ゴ ク ベ

ア ミ カ ミ ノ ナ ミ キ ル ツ カ イ ハ ナ ミ キ ル ツ カ ヒ ハ
カ ミ ノ

ミ エ ズ シ テ ニ ナ ヒ タ テ マ ツ ル ミ エ ズ シ テ ニ ナ ヒ

タ テ マ ツ ル ツ ノ ツ カ サ ヲ ヒ
ツ ノ

ア リ ル イ ヤ
イ タ ダ ケ バ ナ リ ア リ ル イ ヤ ア リ
ア リ ル イ ヤ

ア リ ル イ ヤ ア リ
ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ
ア リ ル イ ヤ ア リ

ヘルヴィム 番外二番

ホルン・エクス・オー作曲

ラ フ レ ヲ ツ ツ シ デ ツ ツ シ デ
ラ フ レ ヲ ツ ツ シ デ ツ ツ シ デ

ヘルヴィム ニッ ト リ
ヘルヴィム ニッ ト リ

セ イ セ イ カン ノウ タ イ ノチヲ
セ イ セ イ カン ノウ タ イ ノチヲ

ホドコ スノセイ シン シャ ニ タ テ マ ツ リ テ
ホドコ スノセイ シン シャ ニ タ テ マ ツ リ テ

オヨ ソ コ ノ ヨ ノ ツ ト メ フ シ リ ゾ ク
オヨ ソ コ ノ ヨ ノ ツ ト メ フ シ リ ゾ ク

シ リ ゾ ク ベ シ シ リ ゾ ク ベ シ
シ リ ゾ ク ベ シ シ リ ゾ ク ベ シ

ア シ カ ミ ノ ナ ミ キ ル ツ カ ヒ ハ ミ エ ズ シ テ ニ ナ
ア シ カ ミ ノ ナ ミ キ ル ツ カ ヒ ハ ミ エ ズ シ テ ニ ナ

ヒ タ マ ツ ル ズ ブ ツ ツ カ サ フ ホ ヒ タ ダ ケ バ ナ
ヒ タ マ ツ ル ズ ブ ツ ツ カ サ フ ホ ヒ タ ダ ケ バ ナ

リ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ
リ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ

ヘルヴィム 番外三番

トルカニーノ作曲

フ レ ラ ッ ッ シン デ ニ ル ゴ ニ ッ ト リ

ヘ ル ゴ ニ ッ ト リ フ レ ッ ッ

シン デ ヘ ル ゴ ニ ッ ト リ

セ イ セ イ サン ノ ヲ ヲ ヲ

イ ノ チ ラ ホ ド コ ス ノ セ イ サン シヤ ニ

タ テ マ ッ リ テ タ テ マ ッ リ テ

オ ヨ ソ コ ノ ヨ ノ ッ ト メ ラ シ リ ゾ ク

ベ シ シ リ ゾ ク ベ シ シ リ ゾ ク ベ

シ シ リ ゾ ク ベ シ

ア シ カ ミ ノ ナ ミ ヤ ル ッ カ ヒ ハ ミ エ ズ シ テ

ニ ナ ヒ タ テ マ ツ ル ズ ヲ ツ ノ ツ カ サ ヲ

オホ ヒ イ タ ゲ ケ バ ナ リ ア リ ル イ ヤ

ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ

ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ
ア リ ル イ ヤ

ヘルヴィム 番外四番

デ・リクスキー作曲

ワ レ ヲ ツ ツ シン デ ヘ ル ズ ニ ッ ト リ

セ イ タ ヲ ヲ タ ヲ イ ノ ヲ フ ホ ト コ ス ノ

セ イ タ ヲ ニ タ テ マ ツ リ テ オ ヲ ソ コ ノ ヲ

ツ ト x ヲ シ リ ヲ ク シ シ リ ゴ ク ヲ

ア カ シ ノ ナ キ ル ツ カ ハ

ミエズシテニナヒタマツルバツツノツカサヲ

オホヒイタダケバナリアリルイヤアリルイヤ

アリルイヤ

ヘルグム 番外五番

ストロークン 作曲

ワレラツツシデヘルグニムトリハット

リセイカノウタヲイノチヲホドコスノ

セイサンシニタテマツリテオヨソコノヨノ

ツトメヲシリゾクベシシリゾクベシ

アシカミノナミキルツカヒハミエズシテニナヒタテマ

ツルバツツノツカサヲオホヒイタダケバナリ

アリルイヤアリルイヤアリルイヤ

ヘルヴィム 番外六番

デ・リオスキー作曲

ワ レ ラ ツ ツ シ デ ヘ ル ヴ ム テ

ハ ト リ ヘ ル ヴ ム ニ ッ ト リ

セ イ カン ノ ウ タ ヲ イ ノ チ ヲ ホ ド コ ス ノ

セ イ カン シ ャ ニ タ テ マ ツ リ テ

オ ヨ ソ コ ノ ヨ ノ ッ ト ヌ ヲ シ リ ヅ ク

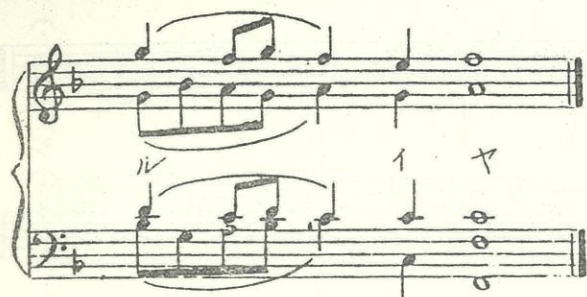
ベ シ シ リ ヅ ク ベ シ

ア シ ア シ カ ミ ノ ナ ミ キ ル ツ カ

ヒ ハ ミ エ ズ シ テ ニ ナ ヒ タ テ マ ツ ル

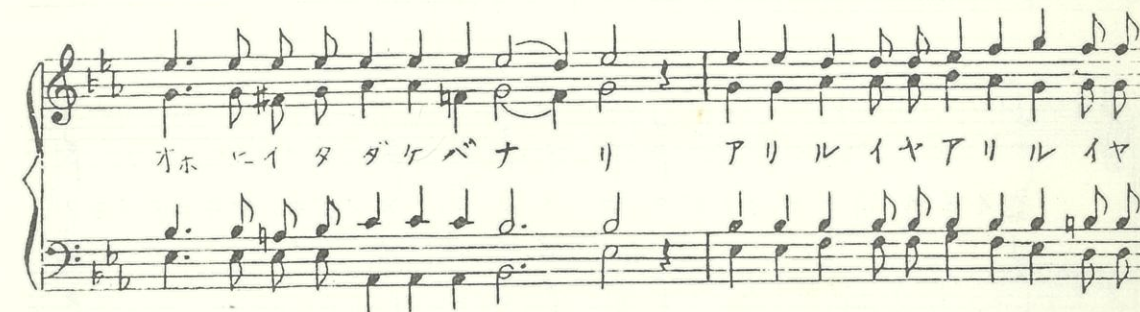
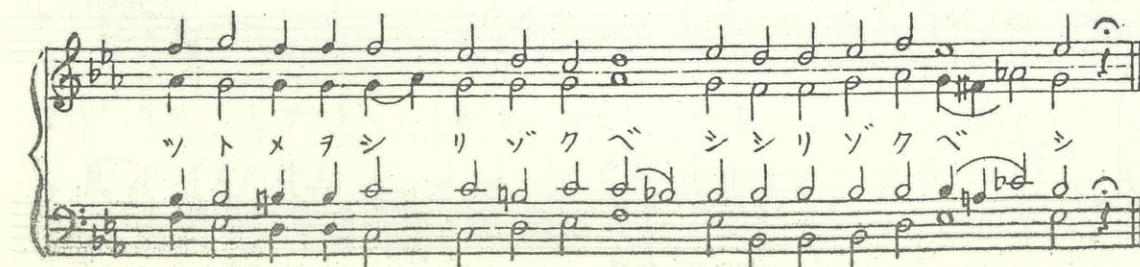
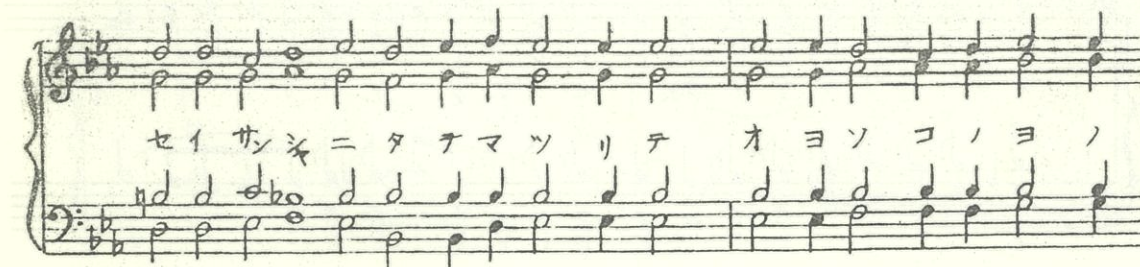
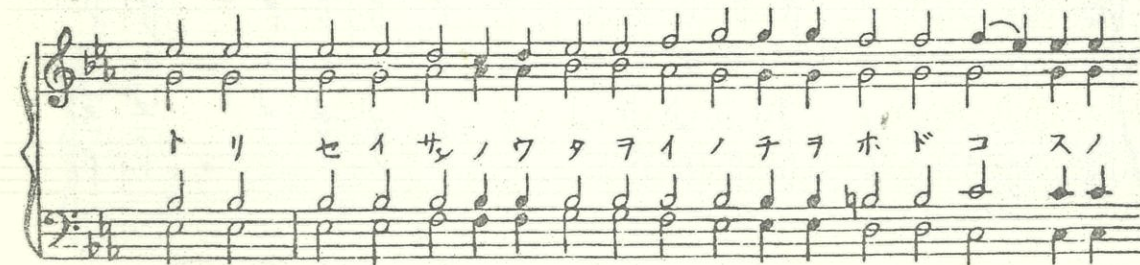
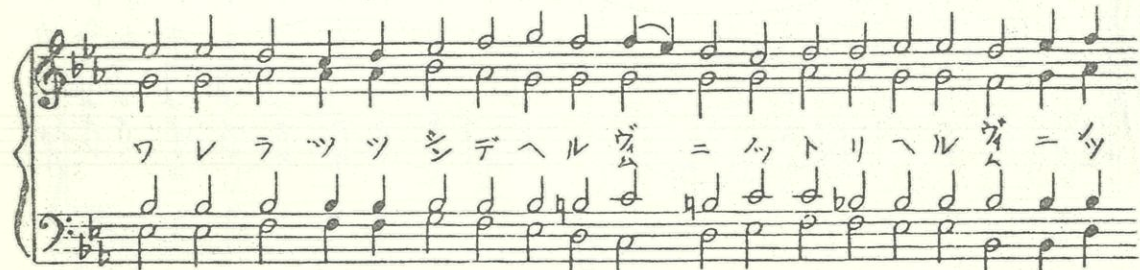
ブ ツ ノ ツ カ サ ヲ ヒ イ タ ダ ケ バ ナ

リ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ
ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ



ヘルヴィム 番外七番

デ・リオフスキー作曲



信 經 二 番

ヤコフ・ハイ作曲

ワレシズヒトツノカミナチゼンヤ シテ トチミユルト

ミエザル ズブツヲツクリ シテラ マタシズヒトツノ

シイイス スカミノドク セイノコ ヨロツヨノサキニチヨリ

ウマレヒカリヨリノヒカリマコトノカミヨリノマコトノ カミ

アマレシモノニテツクラレシニアラズナチト イタ イニシテ ズブツ

カ レニ ッ ク ラ レ ワレラヒトビトノタメマタワレラノスケヒノ

タメニ テン ヨリクダリ セイシオヨビドウタイダマリ ヤヨリ

ミチトリヒト ナリ ワレラノタメニ ボンタイピラトノトキ

ナガク
ジカニクギウタレ クルシミヲウケムラレ

ハヤク ナガク
ダイセジツニセイシニカナ テフクツ ツシ テニノボリ

チチノミギニガ シ ズ エイヲアラハシテikelモノトシセシモノヲ

シバ スルタメニマタキタリ ソノクニヲハリナカラン テ

マタシズセイシシイノチヲホドコスモノチチヨリイ デ

チチオビコトモノヲガマレホメラレヨグ シヲモッテカッテイ ヒ シ ヲ

マタシズヒトツノセイナル オヤケナルシトノ ズ イ ヲ ワレミトムヒトツノ

シレイヲモッテツミノユル シヲウ ルヲ ワレノゾムシヤノ

フク シ ツナラビニライセイノイノチヲアシ

親シミノ捧ゲモノ 二番

ヤコフハイ・作曲

シタミノササゲモノホメアゲノマツリヲ タ ダ ノ シ ニ モ

シ ニ ム カ ヘ リ チチトコトセ イ シ イ

タイニシテワカレガルセイサン シヤハタフ トミ

ヲガマルベシタトミクトミヲガマルベシ

セイセイセイ イナルシサワオウテンニタダノ

クエ イハアマネ シイトタカキニ

オカン ナシノナニテキタルモノハ

アガメホメライトタカキニオカンナ

アミ ア シ シヤタダアガメウタヒ

タダヲホメアゲタダニタシシワガカミヤ

タダニイノルタダニイノル

常二福ヒ二番

ポルトニヤンスキー

ツネニサイハヒニシテマツタクキズナキ

シシタダワガカミハハナルタダ

サイハヒナリトタルハマコトニアタレリ

ヘル ヴイ ヨリ タ トクセラニナラビナクサカエ

ミサホラヤブラズシテカミコトバヲウミシ

ジツノ シン ヨ タル タヂヲ アガメホ ムタヂ

ヲアガメホ ム

親ミノ捧げ物 三番

ヤコフハイ作曲

シタシミノササゲモノホメアゲノマツリヲ アンデノシニモ

シニムカヘリチチトコトセ イシイタイニシテワカレザル

セイサハタトミヲガマルベシ セイセイセイナルミサワカチニ

チヂノ エイハアマネ シイトタカキニオカンナニテ

キタルモノハアガメホノラルイトタカキニオカンナ

ア ミ、 ア シ シヤチガヲアガメウタ ヒチガヲホメ アゲ

タダニカンヤ シワガカ ミヤタダニイノルタダニイノ ル

常二福ヒ 三番

ヤコフ・ハイ作曲

ツネニサイハヒニシタツタ クキズナキ シ

ワガカミノハハナルチ デヲサイハヒナリトトラ ルハ

マコトニアタレ リヘルグヨリタ トクセラヌニナラビ

ナクサ カエミサホヲヤブラズシテカ ミコト バラ

ウミシジ ツノ シシタルチ デヲアガメホ ム

常二福ヒ 四番

ソネニサイハヒラシ チマツクイサギヨ シテ

カミヲクミシシヨ マチデハジツニ ホメラルベシ

ヘルノワヘニク トマレタ エイタグヒナク

セラ ム ニマ サリ ミサホヲヤブラズシテカミコト バヲ

クミシカミノジツノハハナルヲモテタヂヲアガメホム

親シミノ捧ゲモノ 番外 ヴィンガード作曲

シタシミノササゲモノホメアゲノマツリヲタヂノシニモ

シニムカヘリチチトコトセイシイタイニシテ
チチ ト

ワカレガルセイサハタトミヲガマルバシ

セイセイセイナルニサワヲテニタヂノエイハ

アマネシイトタカキニオサナイトタカキニオサナ

ニノナニテキタルモノハアガメホメラル

イトタカキニオサナ アシ アシ

シヤンヂヲアガメウタヒタヂヲホメアゲ

ナン デニ カン シヤ シ ワガカ ミヤ

常二福ヒ 番外

デ・リオフスキー作曲

ツネニサイハヒニシテマツタクキズナキシヤナリ

ワガカミノハハナルナシゲヲサイハヒナリ

トトラルハマコトニアタレリヘルヨリトク

セラムニナラビナクサカエミサホヲヤブラズシテ

カミコトバヲウミシジツノシゲタルンデヲア

ガメホムンデヲアカメホム

天主經 第三番

テニイマスワレラノチチヤネガハクハヒデノナハ

セイトセヲレタゲノクニハキタリタゲノムネハ

テニオコナハルルガゴトクチニモオコナハレ

ワガニヤヨノカテヲシニチワレラニアタヘタマヘ

ワレヲニオヒメアルモノヲワレラユルスガゴトク

ワレヲニオヒメヲユルシタマヘワレヲイザナヒニ

ミテビカズナホワレヲキアクヨリスグヒタマヘ

幾年元

イクトセモイクトセモイクトセモ

イクトセモイクトセモイクトセモ

№ 1.

МНОГАЯ ЛЬТА.

Д. Соловьева.

Т. 1. или А. 2. f
Мно - - - - га - -
Б. 1. Б. 2. f

я ль - - та, мно - га - я

лѣ - - та, мно - - - га - я,

мно - - га - я лѣ - - - та.

ff

№ 2. Бортиянского.

Д. А. *f*

Мно - - га - я, мно - га - я

Т. Б. *f*

лѣ - та, мно - га - я лѣ - та,

мно - - - га - я лѣ - та.

№ 3 Бортиянского.

Д. А. *f*

Мно - га - я лѣ - та, мно - га - я

Т. Б. *f*

лѣ - та, мно - - - га - я

лѣ - - - - та.

Прот. Турчанинова.

№ 4.

Д. А. Мнo - - - га - я, мнo - га - я

Т. Б.

лѣ - та, мнo - - - га - я,

мнo - га - я лѣ - та, мнo - га - я лѣ - та,

мнo - га - я лѣ - - - та.

Свящ. В. Старорусского.

№ 5.

Мнo - - - га - я лѣ - та,

Д. А.

Мнo - - га - я, мнo - га - я - лѣ - та,

Т. Б.

Мнo - - - га - я лѣ - та,

мнo - га - я лѣ - та, мнo - га - я лѣ - та,

многа-я, мнo - га - я лѣ - та,

мнo - га - я лѣ - та, мнo - га - я лѣ - та,

мно - га - я лѣ - та.

№ 6.

С. Смоленского.

Т. 1.
Т. 2.

Мно - га - я лѣ - та, мно - га - я

Б. 1.
Б. 2.

лѣ - та, мно - га - я лѣ - та.

№ 7.

С. Смоленского.

Т. 1.
Т. 2.

Мно - га - я, мно - га - я,

Б. 1.
Б. 2.

мно - га - я лѣ - та, мно - га - я лѣ - та.

№ 8.

Д.
А.

Мно - га - я, мно - га - я

Т.
Б.

мно - га - я

лѣ - та, лѣ - та, лѣ - та, мно - га - я

многа - я лѣ - та, лѣ - та, мно - га - я

лѣ - та

лѣ - та, мно - - - -

лѣ - та, мно-га - я лѣ-та, лѣ-та,

- - - га - я лѣ - та,

мно - - - га - я лѣ - та, мно-га - я

мно - га - я лѣ - та,

лѣ - та, мно - га - я

мно - га - я, мно - - - -

лѣ - та, мно - - - га - я,

- га - я лѣ - - - - та.

мно - га - я

№ 9.

Бортнянского.

Гол. 1. Гол. 2.

Мно - - га - я, мно - га - я

Гол. 3.

ff

лѣ - та, мно - га - я лѣ - та,



大阪ハリストス正教会開教百年祭記念刊行

1978年3月5日

〒564 吹田市山手町一丁目八番十五号

発行人 長司祭 プロクル牛丸 康夫
 監修 聖歌指揮者ティト加藤 直四郎
 編集 アファナシイ 河野 義信
 印刷 バウエル 荻野 常男
 グリゴリイ 小川 公

東京復活大聖堂
聖歌隊

